



北部九州を走る西日本鉄道の路線バスが三十三年ぶりにデザインを
変える。手掛けるのは福岡を拠点として活躍するデザイングループ「ダ
ーウィン」。プロジェクトを率いた建築家、松岡恭子(43)は「バス
のある風景がどれだけ人を気持ちよくさせるか」を考え、チームは斬
新な縦ラインを生み出した。

グループのバス保有台数
で日本一を誇る西鉄バス。
特に福岡ではその多さが際
立つ。おなじみの赤の横ラ
インのデザインと一線を画
す五色の縦ラインの新デザ
インは街の風景も変える。
「『バスのデザインをや
ってみたいか』と依頼があ
ったときは正直驚きまし
た。デザインを通じ地域企
業をコンサルティンクする
という目的で、地元のグラ
フィックデザイナーやプラ
ンナーらと数年前にダーウ
インを立ち上げたのです
が、まさか動く物をデザイ
ンするとは思わなかったか
らです。ただ西鉄のバスは
台数が多く都市景観に影響
を与える。やりがいがある

西鉄バス 33年ぶりデザイン刷新

「どれだけ人を気持ちよくさせるか」

縦ライン、多様な街映す

と感じ承諾しました」
「六人でチームを組み、一つにしてバスのある風景
昨年六月から世界中のバス がどれだけ人を気持ちよく
を調査して三百案のデザイ させるかを考えました」
を制作。『人の生活を楽 「世界のバスの多くは横
と感し承諾しました」 しくなる』をキーワードの ラインのデザインがほとん 必要です。その意味も込め
「六人でチームを組み、一つにしてバスのある風景 だ。ただ、横ラインはスピ てブルー、オレンジなど五
昨年六月から世界中のバス がどれだけ人を気持ちよく ードの象徴だったかと思いい 色の縦ラインのデザインに
を調査して三百案のデザイ させるかを考えました」 ます。今は多様性の時代。 しました。ラインの幅や間
を制作。『人の生活を楽 「世界のバスの多くは横 個々のペースを保つことが 隔が不均一なのはリズム感



まつおか・きよこ 1964年(昭39年)
福岡市生まれ。修猷館高校を経て、87年九州
大学工学部卒業。東京都立大学(現首都大学
東京)、米コロンビア大学の大学院を修了後、
92年米ニューヨークにマツオカ・ワン・アー
キテック(現スピングラス・アーキテック)
を設立。新北九州空港連絡橋など公共施設や
集合住宅の設計を手掛ける。福岡県美しいま
ちづくり建築賞など受賞多数。2007年か
ら東京電機大学未来科学部准教授。

建築家、バスデザイン
プロジェクトリーダー

松岡 恭子氏

を出して個性を表現してい
るんです」
留学先のニューヨークで
設計事務所を立ち上げる。
その後、米国や台湾を拠点
に世界で集合住宅の設計な
どを手掛けてきた。
「私がデザインしている
福岡に拠点を移していま
す。今も中国など海外のプ
ロジェクトを抱えています
が、福岡は東京やアジアに
行くにも便利ですし何より
生まれ育った福岡で建築の
依頼が多くなったというこ
ともあり戻ってきました」
「福岡で仕事をすすめるうち
に私にはここでやりたいこ
とが多いという思いが強くな
ってききました。今は建築
だけの設計ではなく、橋や道路な
どの設計もやらせてもらっ
ています。土木工事はこれ
まで行政などの作り手の論
理で作られていました。そ
のため、私は使役の気持ち
ちや地域の特徴や文化など
を考慮した設計を提案して
います。街との調和を考え
た設計を考えるチャンス

敬称略
西部支社 後藤宏光
写真 玉井良幸